

田人地区 地域おこし協力隊

7月号

ちーの山暮らし物語



天気はまだ薄寒で、山と空が澄み通る湛水の田に映ります。明るく懐かしい風が吹いて蝉が鳴き、優しい春から生き生きとする夏を迎えます。

お米の種まきに続き、田植えの研修をしました。田んぼの面積が広いため、Hさんは普通より倍のスピードで田植えをしていました。まるでフェラーリに乗る人よりかっこいいです！Hさんのスピードに追いつく為に、ご家族と一緒に水稻の苗箱を運んで降ろしてを繰り返しました。

以前、手植えの経験はありますが、大きな田植え機に乗ったことはありません。その機械の操作を習得する為に、Hさんの指導をいただき、田植え機を運転してみました。田んぼは平らではないので、真っ直ぐに走るのに苦戦しました。また、次の列に入るタイミングが難しいのですが、ハンドル操作の練習を沢山すれば、できるようになりそうです。

今回の田植えも色々勉強になりました。大感謝です。

田植え

在来種とは、その地域の環境で生まれたものです。ここはこの風が吹いています。ここはこの水が流れています。在来種野菜の色や味、形や姿も、その場所の風土を感じます。

六月に入ると小豆の種まきの時期です。色々な昔小豆の種を地域のCさんからいただきました。土壌微生物環境を壊さない為、耕さないで、直接メジャーを張って、細い溝を掘ってむすめきたか、ダニマメ、白小豆を四列ずつまきました。鳥に食べられないよう、ネットを張りました。

「むすめきたか」は東北地方の在来種であり、いわき市の代表の一つの伝統野菜です。田人で大事な昔小豆を保存や育てる為に、5月から三和地区の小学校の子どもたちと一緒にむすめきたかを種まきから、草刈り、補植、土寄せ、収穫、調理試食までする「いわき伝統野菜教室全体計画」に参加しています。私の種まきのやり方は伝統野菜教室と大体同じでした。色々な昔小豆を作っているOさんは、小豆の栽培ポイントを教えてくれました。収穫の時に、違う種類の豆が混ざってしまうことが多いそうです。今年、三種類まいいたので、どのような収穫を迎えるか、びびってわくわくして、収穫を楽しみにしています。

昔小豆の種蒔



インゲンの植え替え

今年は無農薬、無化学肥料栽培の一年目です。約三十種類の野菜を作っています。化学肥料に慣れた種や土地には、ハードルが高いです。野菜の生育が良くなく、養分不足、養分の吸収ができない様子がみられます。

今、インゲンや豌豆などの豆類を直播きで育てています。発芽率が良く、間引きと間引きした苗を株間三十センチで植え替えしました。根っこに根粒菌がついていることが観察できました。

根粒菌とは、マメ科植物と共生して空中窒素を固定する有機栄養細菌です。土地自体の養分が足りなくても根粒菌を通じて、窒素分がもらえますので、豆たちは元気に成長しています。

今年の畑と野菜の生育を見て、来年、育てる野菜を考えます。

これからもよろしく願いいたします。



謎のコーナー
知りたかったら
田人へ
おいでちょ！